学校番号	１００７

令和３年度　芸術科

教科	芸術	科目	工芸Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
講座名	工芸Ⅰ						
使用教科書	工芸Ⅰ（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

テーマを設定し、デザインし、自らの手で制作し、実際に使ってみる。「考える」「作る」「使う」という一連の過程を通しておこなう。
「考える」構想する過程が工芸のデザインであり、「作る」は具体化するために取り組む制作の段階であり、最も重要な部分である。そして「使う」は意図したように達成されているか、鑑賞・評価してみる。この一連の過程を通して工芸学習の意義について理解するとともに、機能と美の統合である工芸の原点と豊かで健全な生活をつくり上げる工芸の意味を理解する。

2　学習の到達目標

工芸の創造活動を通して美的体験を豊かにし、表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに、生活を豊かにするために工夫する態度を育て、工芸を愛好する心情を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:工芸への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	工芸を愛好し、生活と美しさとのかかわりに関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて工芸のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的に表現を工夫する。	創造的な表現をするために材料や用具を活用する技能を身に付けている。	作者の心情や意図と表現の工夫、生活の中に生かされている工芸、日本の工芸の歴史などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。
評価方法	制作の様子 ワークシート 鑑賞活動やグループワークの様子	ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品	制作途中の作品 作品	ワークシート 発言内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
第1ターム	モザイクタイルの八角なべしき	オリエンテーション ・授業内容、諸注意、アンケート 課題「モザイクタイルの八角なべしき」 ・課題説明 ・アイデアデザイン ・モザイクタイル貼りつけ	○	○	○		a:工芸の多様な表現に関心を持ち、これからの学習に意欲を高めている。 b: 感性や想像力を働かせて自然や素材、身近な生活や自己の思いなどから心豊かに発想し、用途と美しさの調和を考えて表現の構想を練っている。 c:目的や意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、目的や計画を基に表現している。	学習活動の様子 制作の様子 作品
第2ターム	陶芸小鉢	作品鑑賞 課題「陶芸小鉢」 ・課題説明（陶芸概論） ・練習、成形、焼成、完成	○	○	○	○	a:身近な生活や自己の思い、用途と美しさを考えて構想を練ったり、制作方法を理解し、創意工夫して制作したりしようとしている。 b:感性や想像力を働かせて自然や素材、身近な生活や自己の思いなどから心豊かに発想し、用途と美しさの調和を考えて表現の構想を練っている。 c:目的や意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、目的や計画を基に表現している。 d:作者の意図や表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取り、生活や社会を心豊かにする工芸の働きや作品などついて理解を深めている	学習活動の様子 制作の様子 作品 鑑賞ワークシート 鑑賞活動の様子や発言内容

第3ターム	木彫小もの掛け	課題「木彫小もの掛け」 ・課題説明 ・アイデアデザイン ・彫刻（説明と注意） ・着色（説明と注意） ・組みたて（説明と注意） ・ニス仕上げ（説明と注意） 作品鑑賞	○	○	○	○	a:生活や社会を心豊かにする工芸の働きやデザインの目的や条件、機能や用途などを考えて表現することに関心を持ち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。 b:感性や想像力を働かせて自然や素材、身近な生活や自己の思いなどから心豊かに発想し、用途と美しさの調和を考えて表現の構想を練っている。 c:目的や意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、目的や計画を基に表現している。 d:作者の意図や表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取り、生活や社会を心豊かにする工芸の働きや作品などついて理解を深めている	学習活動の様子 制作の様子 作品 鑑賞ワークシート 鑑賞活動の様子や発言内容
第4ターム	陶芸透し彫り円筒花瓶	課題「陶芸透し彫り円筒花瓶」 ・課題説明 ・デザイン（工夫、吟味） ・成形 ・透し彫り ・焼成 ・レポート作成 作品鑑賞 工芸Ⅰまとめレポート	○	○	○	○	a:身近な生活や自己の思い、用途と美しさを考えて花瓶を制作することに関心を持ち、主体的に発想して作品の構想を練ったり、制作方法を理解し、創意工夫して制作したりしようとしている。 b:感性や想像力を働かせて自然や素材、身近な生活や自己の思いなどから心豊かに発想し、用途と美しさの調和を考えて表現の構想を練っている。 c:目的や意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、目的や計画を基に表現している。 d:工芸作品のよさや美しさ、作者の心情や表現の工夫などを感じ取っている。	学習活動の様子 制作の様子 作品 鑑賞ワークシート 鑑賞活動の様子や発言内容

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:発想や構想の能力

c:創造的な技能　　d:鑑賞の能力

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。